

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.41 March 2014

第4回研究会を開催 11月30日(土)

第4回研究会は、「振興会50周年に向けて～社会活性化の新しい力～」をテーマに講演会を開催いたしました。当日は40名の会員・機構研究員が参加しました。

今回も本会企画担当の株式会社アスク 武内博資氏が司会を務め、大変活気ある研究会となりました。

また、本振興会会員同士の交流の深化を目的に、今回も会員企業のPRの機会を設けました。新規会員企業を中心とした金属・熱処理系4社の企業PRは、本振興会会員にとりましても、会員企業を知る絶好の機会となりました。

研究会終了後の交流会では、講演者や多くの会員企業・機構研究員が参加し、交流を深めました。

1 講演「ポジティブな社会的ネットワーク形成による社会効率の上昇と社会問題の軽減」 関西大学社会学部 教授 与謝野 有紀 氏

与謝野先生は社会学部の教授であると共に、文部科学省の助成を受け2010年に設立された社会的信頼システム創生センター (Research center for Social Trust and Empowerment Process : 略称STEP) のセンター長でもあります。今回は「信頼のネットワークをつなぐ」というセンター設立理念の下、単なる学問的研究の域を超え取り組まれている社会問題解決や地域活性化活動とその成果についてご紹介頂きました。誌面の都合上その詳細はSTEPのサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/step/> をご覧頂ければと思いますが、どのプロジェクトも人間的な温かみを感じさせるものでした。また先生が提唱されている、様々な社会的立場や個人的経験などを有している人達がPONET (POSITIVE NETWORK) を構築することにより、メンバー全員が中長期的にWin-Winを享受できると言う考え方は振興会活動にも通ずるものがあると、参加者の多くが強く感じたのではないのでしょうか。



2 会員企業のPR

(1) 第一鋼業株式会社

第一鋼業株式会社は、せん断刃物、破碎刃など産業機械用刃物の製造販売、及び工作機械部品の加工の他、金属熱処理加工メーカーでもあります。熱処理加工では、目的に合わせて、大気炉・雰囲気炉・真空炉を使い分け、高速度鋼に対しては塩浴炉(ソルトバス)を用いた熱処理加工も受託しています。また、耐摩耗性、耐焼付き性、耐かじり性向上において、最表層に1μm程度の窒化層を呈する窒化処理など高度な表面改質技術を有しています。高付加価値の刃物については、日本刀に代表されるように、材料選定から熱処理による物性発現、及び機械加工まで三位一体の一貫製造で顧客の用途に合わせた対応ができるのが強みです。



(2) 株式会社ヒラカワ

株式会社ヒラカワは、明治45(1912)年に創業、戦後は国産初の炉筒煙管ボイラを開発し、現在は蒸気ボイラ・温水ヒータで中小規模の事業所の省エネをサポートするボイラ専門100年のメーカーです。1995年にはタイに進出、2004年以降は欧米の有力企業と提携を進めています。関東や関西の主要地区で地域冷暖房を提供するとともに、ソーラーパネルと潜熱回収を組み合わせたハイブリッドソーラー温水システムなどの環境に優しい技術の開発にも注力しています。遠隔監視による運用・メンテナンスや、省エネ診断・提案などのサービス事業にも取り組んでいます。当日は、創業100周年記念で改定された社史・技術文献データ集を兼ねた「ヒラカワボイラ便覧」を参加者全員に頂きました。



(3) 有限会社七島屋エンジニアリング

有限会社七島屋エンジニアリングは、代表取締役 赤澤氏が企業に在職中、遠洋漁業船上で魚肉の骨と身を分ける機械の開発を担当し、本学で学んだ材料の知識を活用して機械の耐久性 10 倍を達成したことが縁となって、生鮮食材を衛生的かつ確実にカッティングする多層刃一括スライサーのメーカーとして独立創業しました。以降、客先ニーズに応えロコミで全国に展開し、1998 年には米国進出を果たして、米英仏・中韓・東南アジア・中米を含めて累積販売 1500 台を達成しました。プレゼンでは、脱着式ナイフユニットや柔らかい素材を正確に把持・カッティングする搬送機構の解説とともに、骨付き鶏など多様な素材の加工例を映像で紹介されました。



(4) 株式会社ダイネツ

株式会社ダイネツは、文化 10(1813)年に当時の国際自由貿易都市堺で鍛冶炭御問屋として創業、200 年の歴史を有する金属熱処理の老舗です。建機・工作機械・風力発電・自動車などのシャフトやギアなど、大型部品の熱処理を受託加工しています。金属熱処理技能士の国家取得率は 92%で、ミス冷却などの新技術の開発に努めています。1970 年の日本万国博覧会松下館の「タイムカプセル EXPO'70」の制作や、東京スカイツリーの展望台の部材にも採用されています。グループの三洋金属熱錬工業は、ベルト式連続炉による自動車の中～小型部品の熱処理、同じくダイネツ商事は、大手住宅メーカーの構造部材を自動ラインで生産しています。



3 講演「中小機構の産学連携と企業支援の取り組みについてのご紹介」

独立行政法人中小企業基盤整備機構

近畿本部コーディネータ

江村 寛計 氏

統括プロジェクトマネージャー

多田 知史 氏

本学 OB でもある中小企業基盤整備機構近畿本部の江村ビジネス・インキュベーション・コーディネータから、中小企業の新技術開発と新事業創出を支援する産学連携の取り組みの説明があり、本学の産学連携サテライトオフィスが入居するクリエイションコア東大阪などの「インキュベーション施設」事業や展示会「ビジネスマッチング」などの各施策のご紹介がありました。続いて、同じく本学 OB の多田統括マネージャーから、異分野企業同士の「新連携」、特産物・伝統技術・観光資源を活かした「地域資源活用」、農・林・漁業との「農商工連携」の 3 つの支援策について説明があり、6 次産業化やサポインについても制度活用のポイントなど具体的な事例を挙げて紹介がありました。



アンケート集計結果

今回は 26 件の回答を得ました。その中で、研究会の内容については、「参考になった」「やや参考になった」が 89%、「理解しやすかった」「やや理解しやすかった」が 88%、「長さも適当」が 61%でした。

また、「関心のある技術分野」については、「ものづくり・加工」「素材・材料」「機械・メカトロニクス」との回答が多く、「知りたい情報」については、「実用化が期待される研究成果」との回答が多くありました。

これらの結果を、今後の研究会活動に反映するよう努めてまいりますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

第 5 回研究会を開催～第 18 回先端科学技術シンポジウムに参加～

科学技術振興会では、1月 23 日（木）、24 日（金）に開催された第 18 回先端科学技術シンポジウムにおいて振興会セッションとして、第 5 回研究会を開催しました。会員をはじめ同シンポジウム参加の多くの方々に本振興会のパネル展示をご覧いただきました。

先端機構における一年間の研究成果の集大成としての同シンポジウムは会を重ねるごとに盛況となり、今回も企業や研究機関等から延べ 1,152 人の方にご来場いただきました。



振興会のホームページ

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>

関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力してください

ASCIKU 関西大学科学技術振興会

Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University

関西大学科学技術振興会は平成 27 年に 50 周年を迎えます